

妊娠期・乳幼児期における歯科保健の現状について

胎児期及び妊娠期

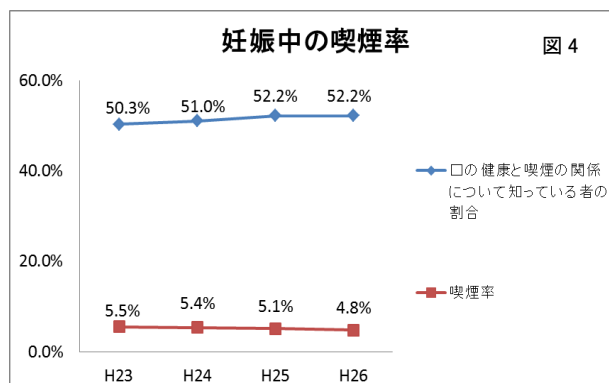
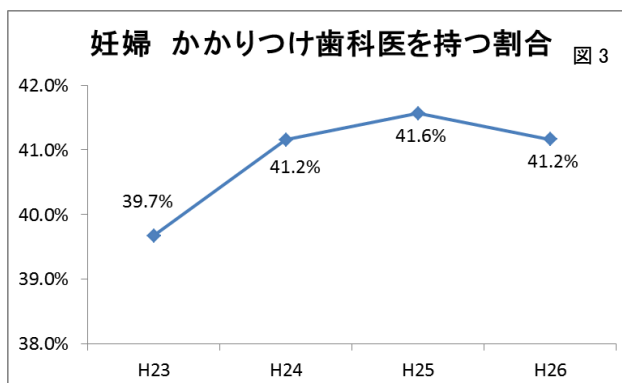
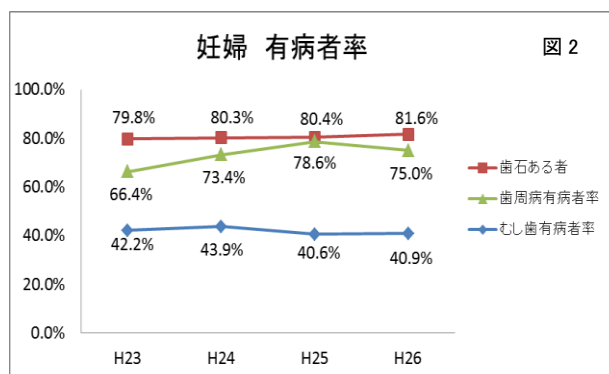
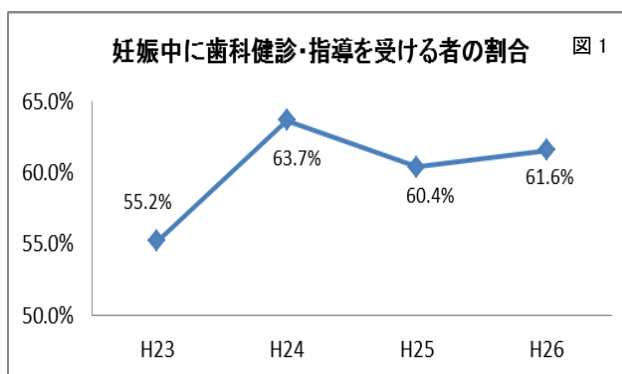
【目標】 口腔の健康を通して、健やかな妊娠生活を支援します

【指標】

胎児期及び妊娠期	No	指標項目	H23	H26	目標値 (H34)
	1	口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	50.3%	52.2%	75.0%
	2	妊娠中の喫煙をなくす	5.5%	4.8%	0.0%
	3	妊娠中に歯科健診・指導を受ける者の増加	55.2%	61.6%	75.0%

◆現状

- ・妊娠中に歯科健診を受診する者は、約 6 割程度である。(図 1)
- ・経年的に4割程度の妊婦が未処置のむし歯を保有している。(図 2)
また、歯周病を有する者は 75%であり、昨年度より減少した。歯石がある者は 81.6%であり、歯科治療が必要な者は、経年的に 8 割を越える状況である。(図 2)
- ・かかりつけ歯科医をもつ人の割合は約4割程度である。(図 3)
- ・妊娠中の喫煙率は減少傾向であり、指標 1 の「口の健康と喫煙の関係について知っている者」は、微増傾向である。(図 4)



◆課題

- ・親子健康手帳発行時に区役所で歯科健診を受診しない妊婦に対して、歯科医院で受診できる無料受診券を発行しているが、約 4 割の妊婦は歯科健診を受診していないため、歯科健診の受診率向上に向けた対策が必要である。
- ・早産や低体重児出生予防を含めた歯周病予防に関する啓発が必要である。
- ・生まれてくる子どものむし歯予防のためにも定期的な口腔管理の必要性を啓発する必要がある。
- ・口の健康と喫煙の関係について情報提供の充実を図る必要がある。

乳幼児期

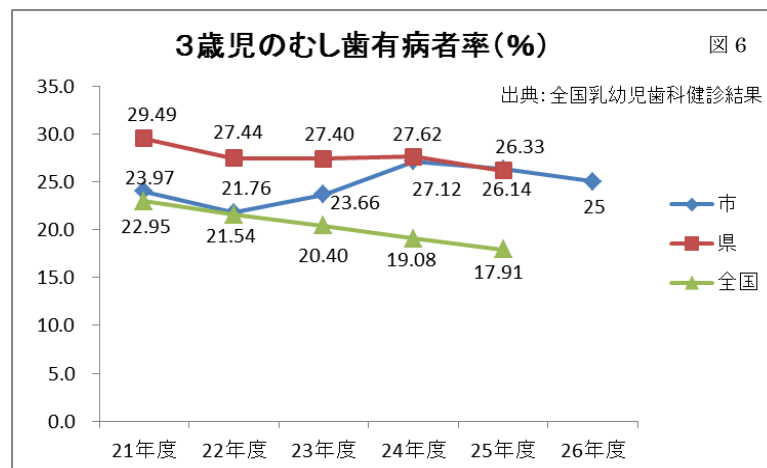
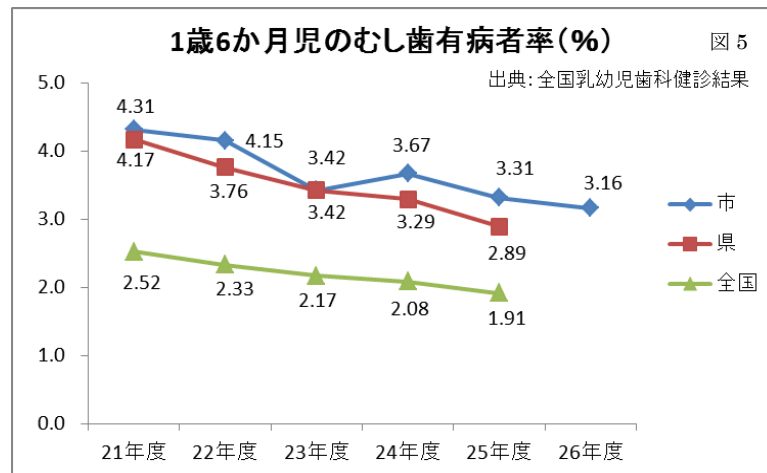
【目標】 乳幼児の歯と口腔の健やかな発達と楽しい育児を支援します

【指標】

	No	指標項目	H23	H26	目標値 (H34)
	乳 幼 児 期	4	1歳6か月児でのむし歯のない者の増加	96.6%	96.8%
5		3歳児でのむし歯のない者の増加	76.3%	75.0%	90.0%
6		3歳児での不正咬合等が認められる者の減少	23.5%	26.8%	10.0%
7		3歳までに2回以上フッ化物塗布を受けたことがある者	40.9%	43.1%	70.0%
8		フッ化物洗口を実施する認可保育園・幼稚園の増加	46.2%	46.7%	60.0%

◆現状

- ・年々子どものむし歯は減少傾向ではあるが、平成 25 年度の 1 歳 6 か月児むし歯有病者率は 3.31%であり、3 歳児のむし歯有病者率は 26.33%であった。いずれも、県・国よりもむし歯が多い状況であった。(図 5、図 6)
- ・3歳児のむし歯有病者率は、H23 年度 23.66%から H24 年度 27.12%に増加した結果であるが、平成 24 年度から対象者を 3 歳 1 か月児から 3 歳 6 か月児に変更した事も要因の1つである。

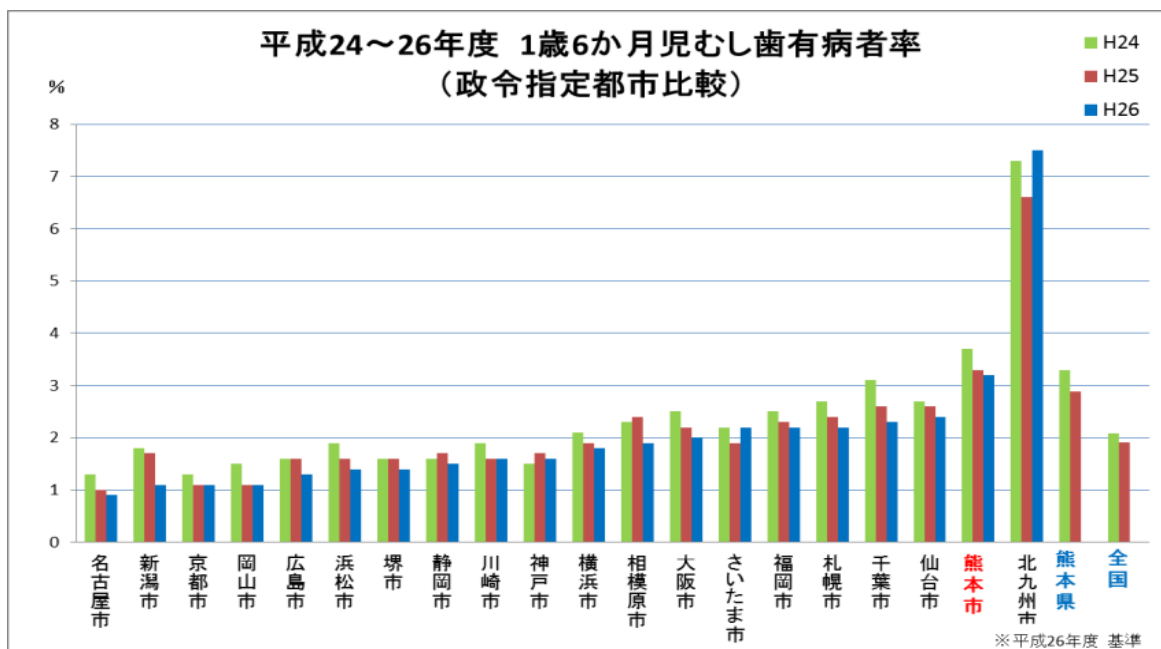


■ 1歳6か月児のむし歯有病者率（政令市比較）

・平成 26 年度は、政令市の中で 2 番目にむし歯が多い結果となった(図 7)。

図 7

出典：全国乳幼児歯科健診結果

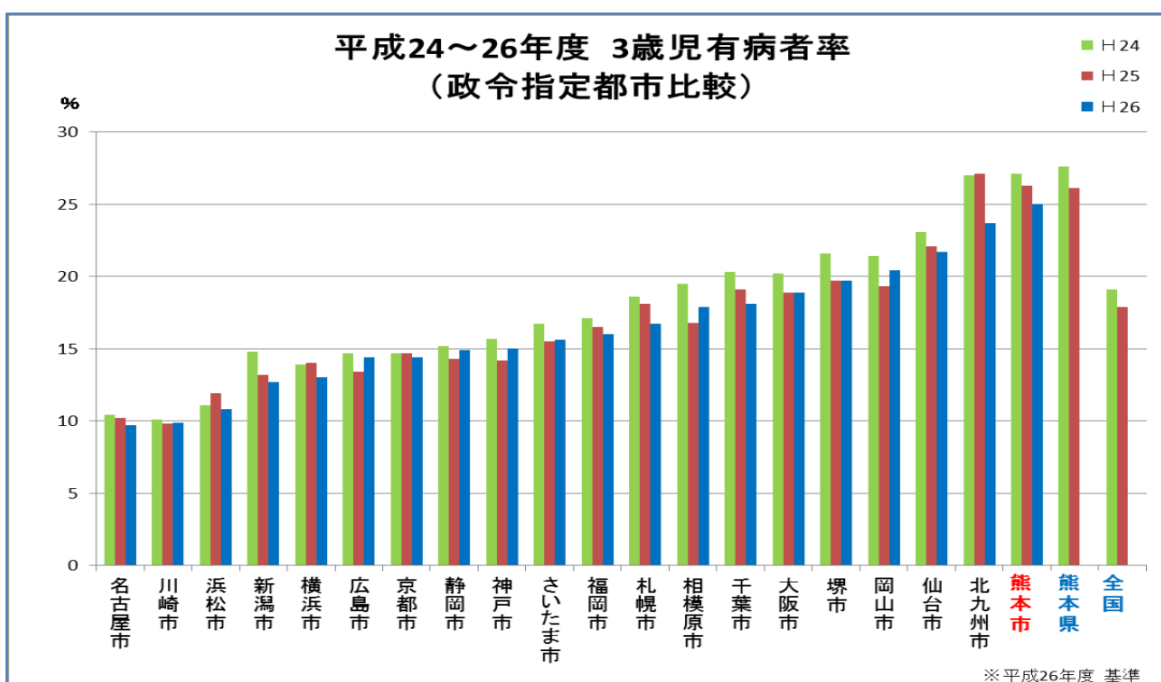


■ 3歳児のむし歯有病者率（政令市比較）

・平成 26 年度においては政令市の中で 1 番むし歯が多い結果となった。(図 8)

図 8

出典：全国乳幼児歯科健診結果

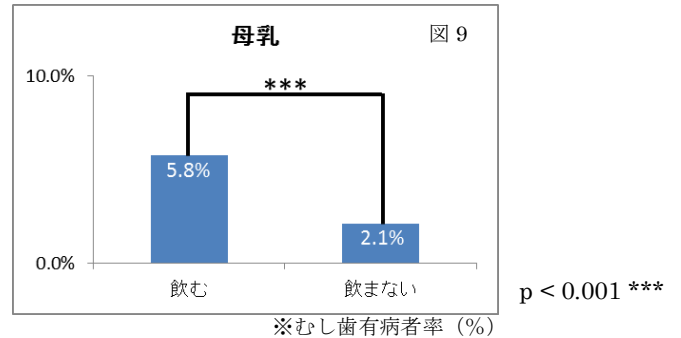


1歳6か月児歯科健診の結果より

○むし歯がある1歳6か月児の特徴

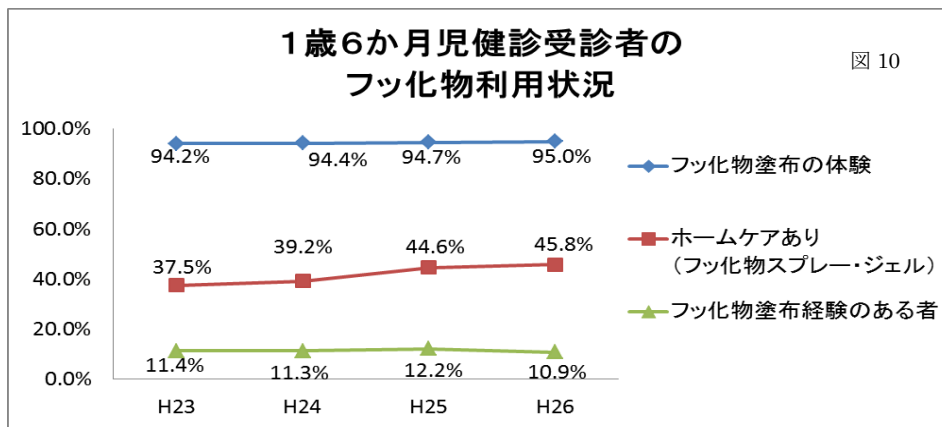
(平成24～26年度の1才6か月児歯科健診結果より)

- 卒乳していない



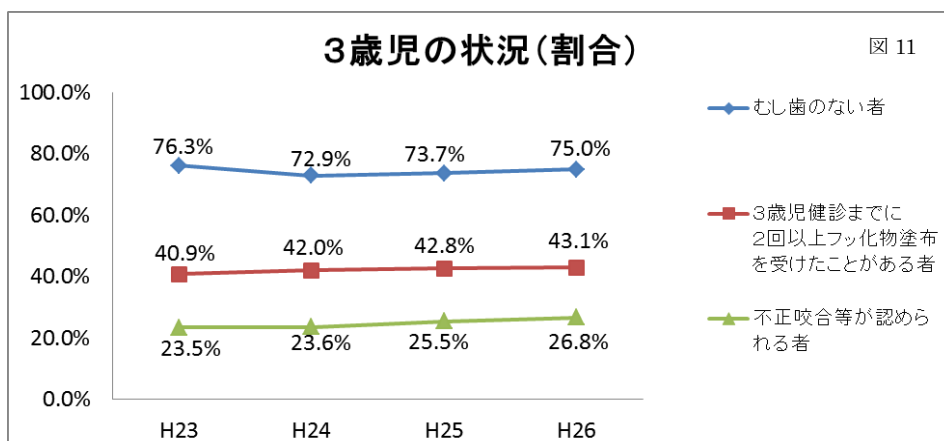
○1歳6か月児のフッ化物利用状況

- ・1歳6か月児健診までにフッ化物塗布を経験した者は、約1割と少ないが、1歳6か月健診時にフッ化物塗布の体験を希望する者は、毎年9割以上である。(図10)
- ・1歳6か月児歯科健診時には、かかりつけ歯科医を持ち、継続的にフッ化物塗布を実施する事と、フッ化物配合歯磨き剤の使用がむし歯予防に効果的であることも併せて勧めている。



○3歳児における指標項目の達成状況

- ・むし歯のない者は基準値よりも減少し、不正咬合等が認められる者は基準値よりも増加しており、目標値に向けて改善できていない。(図11)
- ・3歳児健診までに2回以上フッ化物塗布を受けたことがある者は経年的に微増傾向であり、改善傾向にある(図11)

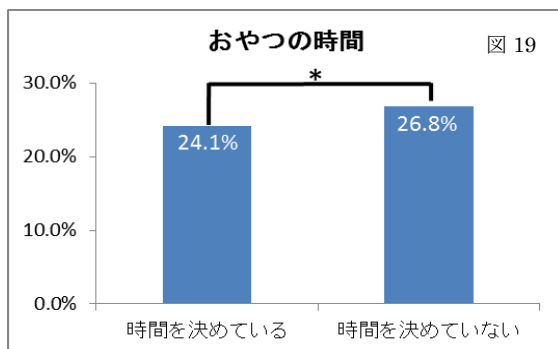
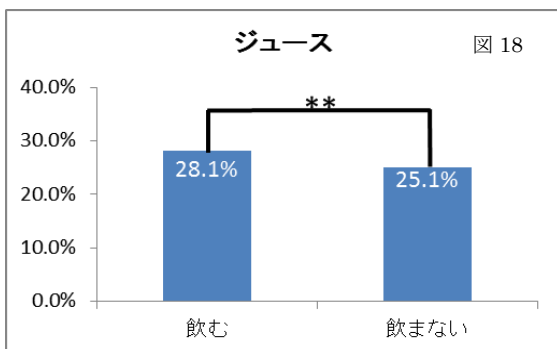
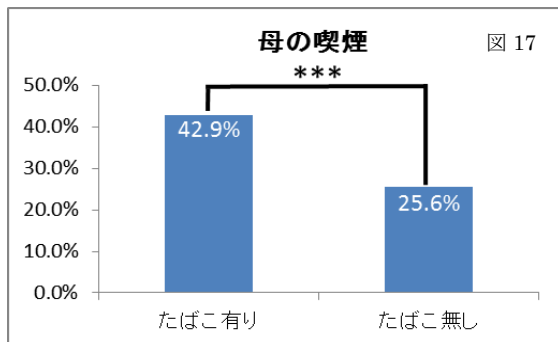
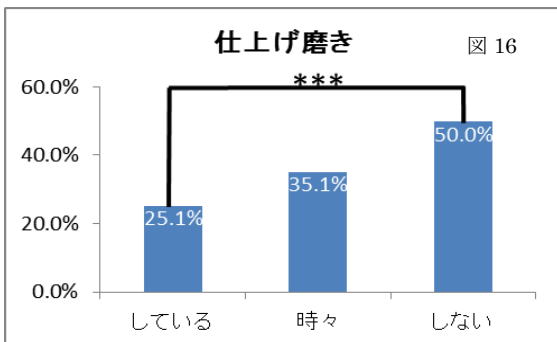
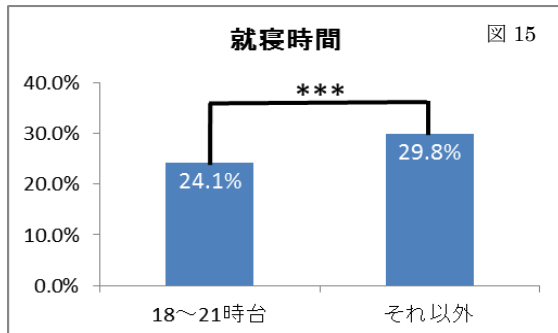
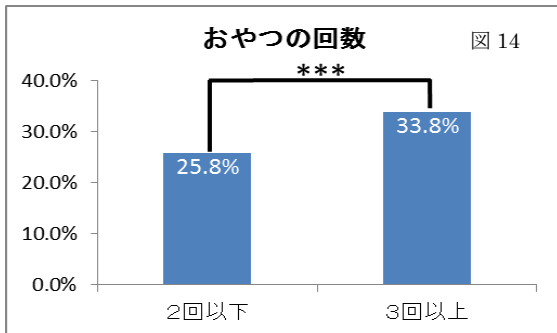
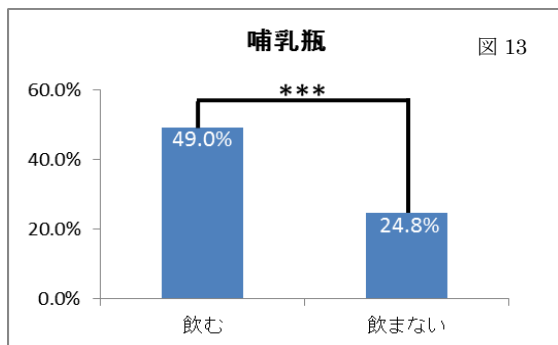
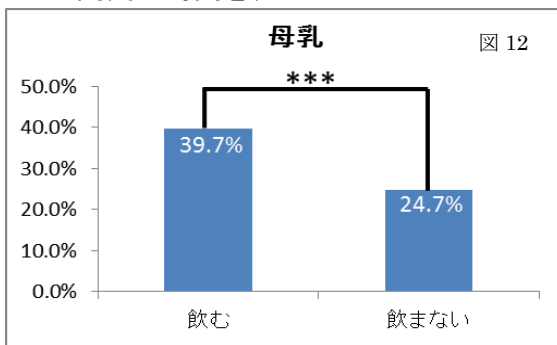


3 歳児歯科健診の結果より

○むし歯がある3歳児の特徴 (平成 24～26 年度の 3 歳児歯科健診結果より)

- 卒乳していない
- 哺乳瓶を使用している
- 間食回数が 3 回以上
- 就寝時間が 22 時以降
- 保護者による仕上げ磨きができてない
- 母親が喫煙している
- イオン飲料やジュース等、甘味飲料を飲む
- 間食の時間を決めていない

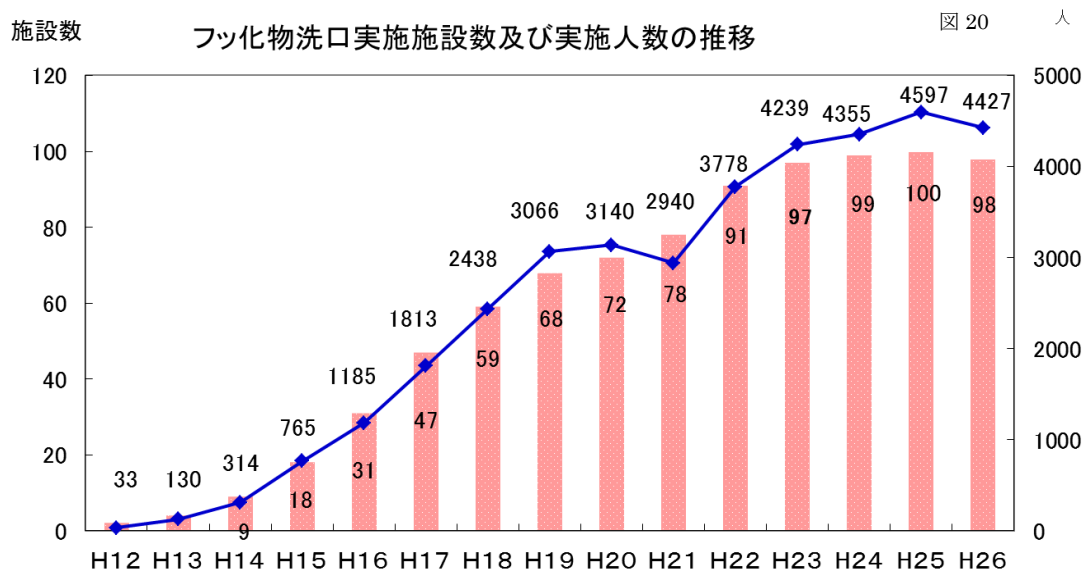
※むし歯有病者率 (%)



p < 0.05 *
 p < 0.01 **
 p < 0.001 ***

○保育園・幼稚園におけるフッ化物洗口の実施状況

・フッ化物洗口を実施する施設は増加傾向であったが、経費的な理由により中断する施設があり、平成26年度は98施設に減少した。(図20)



◆課題

- ・1歳6か月児健診より早い段階からのむし歯予防対策が必要である。
- ・むし歯の要因となっている生活習慣について、健診や相談等のあらゆる機会を捉え、保護者や子どもをとりまく関係者に情報提供していく必要がある。
- ・むし歯が急増する1歳6か月から3歳までの間に、ハイリスク対象者に個別アプローチが必要である。
- ・3歳までに不正咬合を予防するための情報提供を充実する必要がある。
- ・仕事を持つ母親が増加している中、保育園や幼稚園へ通園する保護者への情報提供が必要である。
- ・保育園・幼稚園に対して実施園拡大に向けた説明会などを実施しているが、年に数園しか増えず、推進に向けた取組みの強化が必要である。